

「正義の注意がいじめになる？」という教材で授業をしました。コロナ禍の時期は、他県ナンバーの車に石を投げつけたり、コロナにかかった人を差別したりする「自粛警察」と呼ばれる人たちがいました。相手の悪い部分や、直してほしいところを指摘するとき、「自分が正しい！」という意識から、乱暴な言葉を遣ったり、差別を行ったりしてしまうことがあります。しかし、「正しさ」の感覚は人によって違い、指摘する際は、相手の気持ちも考えながら伝えないといじめになってしまいます。授業の最後に、今後意識していくこととして、「どんなときも思いやりの気持ちをもって伝える」という振り返りを書いていました。